

地域づくり推進基本方針2024改定版におけるプラットフォーム

資料4

1.プラットフォーム（PF）の5つの要素（大切なこと）

①「やりたい・やってみよう！」の想いから始まる【自発】

「やりたい・やってみよう！」という自発的な想いから始まり、個人や団体を誘い込みながら共感を広げていく

②出入りが自由でオープンな場【自前・自在】

多くの人や、行政を含む地域の団体等がゆるやかにつながり、デジタル技術を活用して参加できる機会を増やすなど、出入りが自由で負担感が少ないオープンな場とし、地域の新たなつながりが生まれていく

③「こんなことならできるよ！」を持ち寄る【自前】

参加者全員がフラットな関係で楽しく参加する中で、既に行っている地域活動や、参加者の「得意」を持ち寄り、話し合いながら、活動の変化や発展を楽しむ

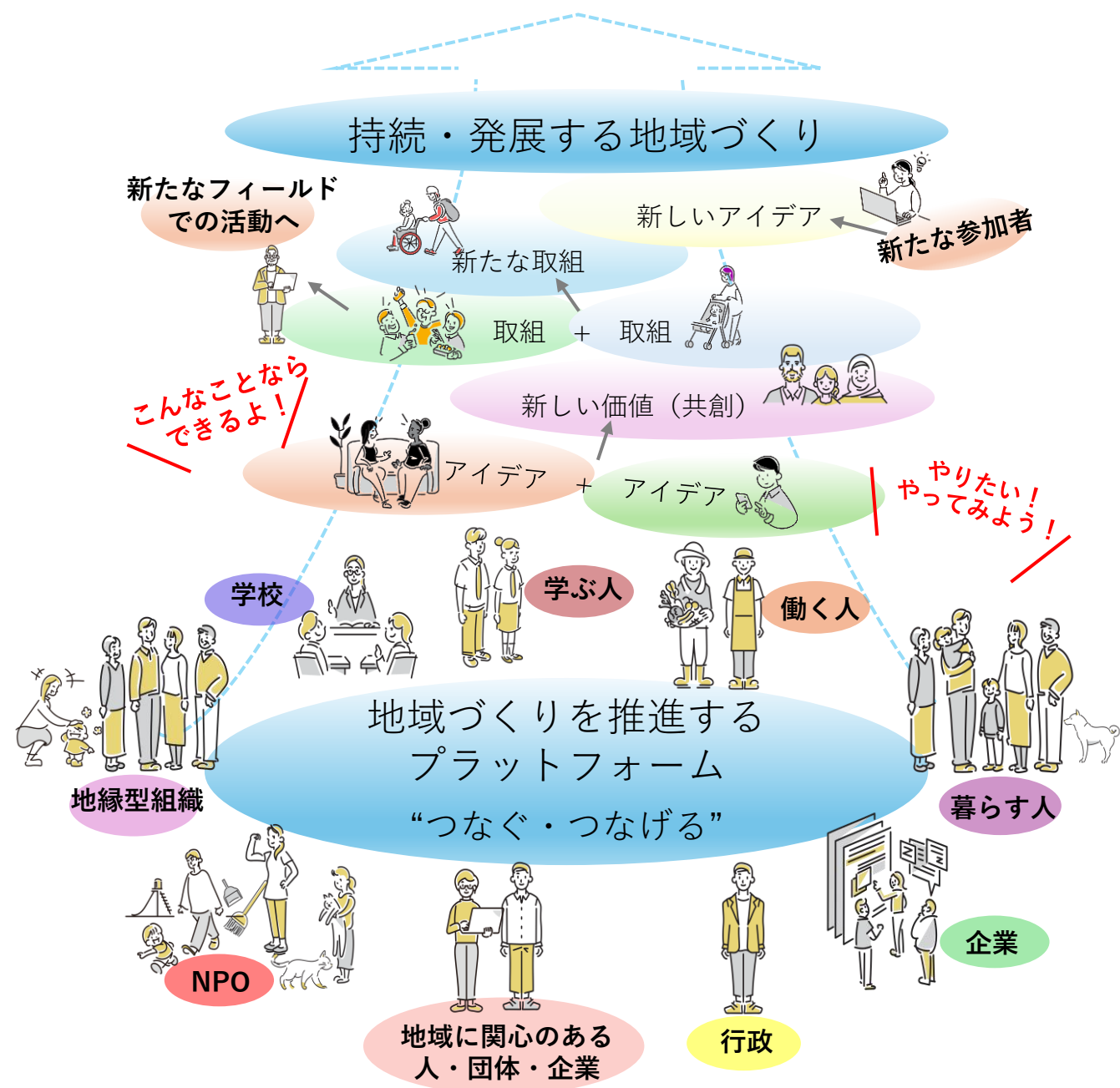
④無理なく、楽しく、つながり、続いていく【自発・自前】

参加者が主体的に話し合い、情報の共有、つながりづくりを進めることで、無理なく楽しく、躍動感のある活動が続いていく。

⑤地域の実情、ペースに合わせて【自発・自前・自在】

PFの発足方法、組織体制、活動内容等を全市一律に決めるものではなく、PFの参加者が地域のことを“我がこと”として考えながら、地域の実情、ペースに合わせて進めていくことで将来的な地域の担い手の養成にもつながる場とする

ゆるやかなつながりを大切に
地域をもっと好きになる！



ゆるやかなつながりが
無数に生まれる

ゆるやかなつながりを大切に



地域をもっと好きになる

活動の豊かさ
躍動感が生まれる

地域の厚みが
増していく

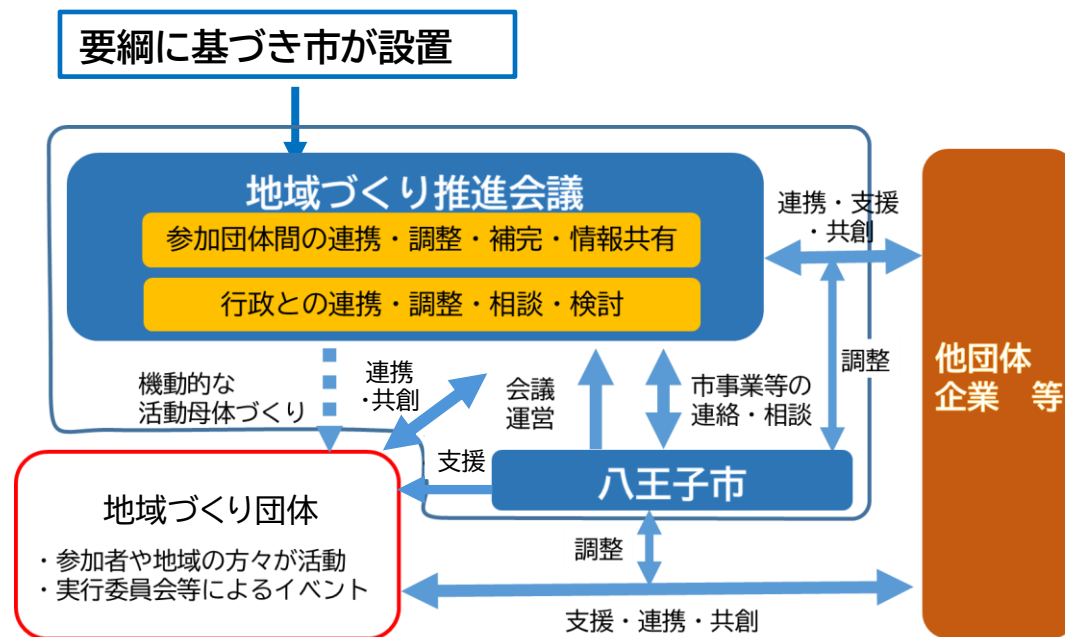
地域づくり推進基本方針2024改定版におけるプラットフォーム

2.既存中学校区における地域づくり推進会議の方向性

「プラットフォームの5つの要素」を踏まえ、全市展開を見据えた検証を行いながら、令和8年度末までに新たなプラットフォームへの転換を目指します。

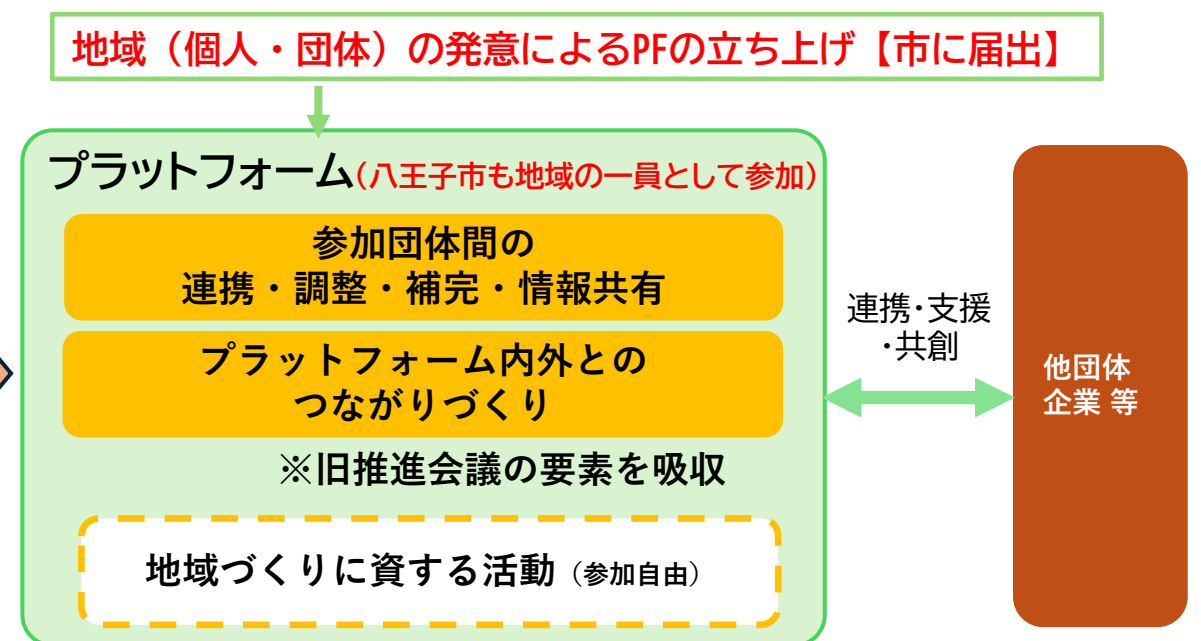
【現状】

市が推進会議の設置・運営だけでなく、活動組織との連携や支援、共創による地域の課題解決・魅力向上を図る。



【令和7年度以降】

「やりたい・やってみよう！」という想いのある個人や団体によりプラットフォームを設置・運営。様々なステークホルダーと連携・共創し地域の課題解決・魅力向上を図っていく。



3.既存中学校区の検証後の全市展開を見据えた、新規中学校区におけるプラットフォームの立ち上げの流れ（案）

